

放射線取扱者個人管理システムの課題と対策

磯部 靖博*¹, 上村 実也*²

*¹熊本大学生命資源研究・支援センター, *²熊本大学工学部

1. 課題

熊本大学において今回導入された放射線個人管理システム (Personal Management System for Radiation handler 以下「PMSR」とする) は、放射線取扱者管理における様々な問題点を是正するためのものであり、まずその課題について簡単に述べる。

(1)セキュリティの問題

これまで運用してきた個人管理システム (以下「旧システム」とする) は、インターネットを介しての操作が主であるためグローバル IP を設定せざるを得ず、セキュリティが十分担保できているとは言い難い状態であった。旧システムには放射線取扱者を特定するための個人情報が含まれており、それら個人情報についての漏えい等への早急な対応が望まれていた。

(2)管理に要する負担の問題

従来の放射線取扱者の登録申請はすべて学部・大学院の事務を窓口にしていた。このため、窓口担当の登録書面の送付などの事務負担の増大が問題となっていた (図 1)。また、登録申請書面の記載の不備も少なくなくシステム管理担当者による対応負担も慢性的に生じていた。

(3)登録申請の遅延・不確実性の問題

放射線取扱者によっては、登録要件たる教育訓練および健康診断の受診を具備すれば放射線取扱者と認められると誤解し登録申請の開始の合図である登録申請手続を怠る者が多く、怠った場合は本人による登録申請があるまで旧システムへの登録作業は停止せざるを得なかった。また、窓口担当から旧システム担当者等までの登録申請書面の送付に不備があった場合、登録申請の遅延だけでなく登録申請したにもかかわらず登録されないといういわゆる登録申請の不確実性が高まる状態となっていた。

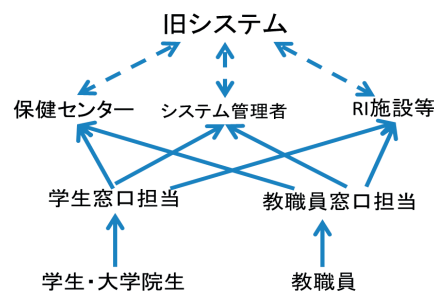
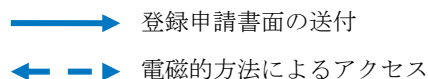


図 1. 旧システムにおける登録管理図



2. 対策 (PMSR の構築)

PMSR の最大の特徴は学籍情報・人事マスターに用いられている熊本大学統合認証システム (以下「統合認証システム」) に組み込まれたことである (図 2.)。以下、概要を述べる。

(1)高セキュリティの実現

統合認証システムは学籍情報・人事データ等の重要な個人情報等を統合的に管理するシステムであり、それらの情報はシステム内のサーバに提供可能であるため、非常に高いセキュリティが担保されている。よって、PMSR は統合認証システムによる高セキュリティ性を享受し、放射線取扱者における個人情報の漏えい防止効果を高めることが実現した。

(2)ペーパーレスの実現

統合認証システムへの組み込みによって、登録申請書は電子データとなり窓口担当による送付は不要となった。また、学部等の教職員および学生担当事務は PMSR によって電子化されたデータを抽出及び処理をするだけで従来と同様の効果かつ正確かつ迅速な処理が可能となった。

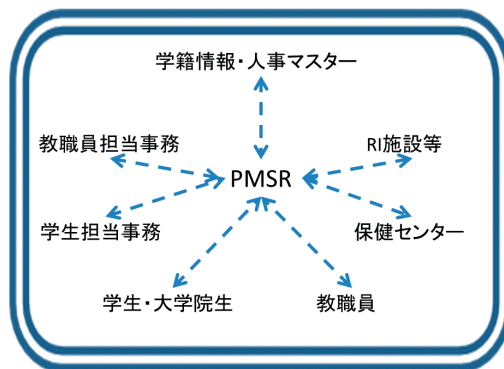
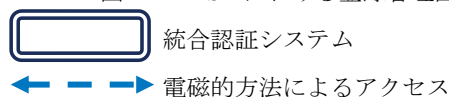


図 2. PMSR における登録管理図



(3)登録申請手続の確実化の実現

統合認証システムは熊本大学に在籍する職員及び学生がそれぞれの権限においてログインすることができるため、システム内においては身分の証明を担保するものとなる。よって、自己の責任において登録申請を行うことから、登録申請手続は確実に関係者に通知されることとなる。これは、新規の登録申請だけでなく登録更新の申請においても同様に処理ができるため、従来から登録している放射線取扱者にも便宜となった。

3. 今後の課題

現在、PMSR は来年度からの単独運用のため、旧システムと併用して運用している。現段階で取り組むべき課題について簡単に述べる。

(1)帳簿・様式等の整備

現在、放射線取扱者のデータは出力項目を指定して CSV ファイルに出力する機能しかないため、当面は差し込み印刷における帳票の作成で対応する予定である。将来的には修正ができない書面形式のファイル出力が可能か検討する必要がある。

(2)ユーザー権限の拡大

放射線取扱者自身に申請をさせることができる機能を活用し、放射線取扱者自身が帳票・報告書を入手し利用できる機能が搭載できないか検討する必要がある。現在は、帳票・報告書の交付等は手続の万全のため主任者等による手作業で行われているが、統合認証システムの手続の確実性はこれらの検討を比較的容易にするものとする。

(3)学内 e-ラーニングとの併合、教育訓練受講記録・健康診断受診記録の自動入力化

統合認証システムには e-ラーニングシステムも含まれており、健康診断の問診などの申請者との細かいやり取りが必要になる場合に有効に活用できるものと考え、今後の検討課題とする。

また、教育訓練や健康診断の受講・受診データを持参した学生証・身分証明書のデータを読ませることで、自動的に PMSR に記録される方法を取れば事務処理の軽減及び確実性が期待できるため、これについても今後の検討課題とする。